

生産出荷近代化計画の概要

- [野菜指定産地名] 大崎
- [指定野菜の種別] ほうれんそう
- [指定区域] 大崎市，涌谷町，美里町
- [指定年月日] 平成8年5月30日
- [計画樹立年月日] 平成11年5月30日
- [計画変更年月日] 令和3年3月31日

[変更後の計画概要]

○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

補助事業等の活用により、パイプハウスや省力化機械等の導入が進み、作付規模が拡大するとともに周年出荷体制を確立している。産地全体としての生産量は、連作障害等の発生により減少傾向にはあるが、栽培技術対策としての土づくりや品種試験を実施し、技術レベルの平準化に取り組み、他品目との輪作体系を実施し、生産拡大に努めている。また、品質面においても、農業改良普及センター等の指導により、生産・出荷各段階での技術改良が着実な成果を上げ、市場評価の高い商品の安定供給を実現している。今後とも、より安定した生産体制を確立し、作付面積の拡大を推進するため、施設・機械等の一層の充実、新技術の積極的な導入を図り、生産基盤の整備を進める。

生産性向上の方針として、土壌診断の徹底による有機質肥料中心の施用や、安全・安心な農産物生産で信頼される産地を目指すとともに、合理的・計画的な作付け体系を確立する。さらに、市場の動向を踏まえた生産計画・出荷体制の展開を図る。

また、販売面においては契約取引先の開拓・拡大を図っていく。特に、栽培マニュアル・防除マニュアルを基本に生産工程（栽培暦）等の栽培管理情報を取引先（市場・量販店）に開示する等、安全・安心に係る取組を推進するほか、市場・量販店等調査を行うことにより、有利販売に努めている。

一方、兼業化の進展に伴う担い手不足や生産者の高齢化等による労働力の低下に対応するため、集出荷施設の整備も含めた省力生産体制の確立を早急に進めるとともに、収穫調製作業の効率を追求した機械導入の検討や、地域内の労働力を有効に活用するための調整方策等についても検討を進める。特に、意欲のある農業者については法人化等を念頭におきながら、その育成・指導にあたるものとする。

○生産出荷近代化の現状と目標

項目	現状 (H29)	目標 (R4)
作付面積 (ha)	59	52
生産量 (t)	461	386
出荷量 (t)	263	263
共販等量 (t)	234	234
共販等率 (%)	89	89
収量 (kg/10a)	790	727